



消火・救出活動について

志太消防本部 藤枝消防署



藤枝市火災状況

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

■火災件数		30件
■火災種別	建物火災	20件
	車両火災	6件
	林野火災	0件
	その他	4件

消火活動について

- ☆火災時の対応で大事なのが、発生から 2 分以内の初期消火となります。
- ☆一般的に、初期消火の目安は火が目線の高さ程の時です。
- ☆建物内で火災が発生してから天井に火が燃え移るまでに約 3 分かかるため、被害を最小限に留めるためには、早めの初期消火が非常に有効です。

初期消火に必要な 3 つのアクション

- ・ 火事を知らせる
1 1 9 番通報する。
- ・ 消火活動をする
大きな火災になる前に、消火器・多量の水を使って消火する。
- ・ 現場から逃げる
炎が自分の目線以上の場合初期消火は困難なので、早急に逃げることを優先する。



初期消火活動の方法で最も確実なのが消火器となります。

- 消火器の種類
粉末系消火器、水系消火器、ガス系消火器
- 粉末系消火器の使用時間は、約15秒から30秒となり、有効範囲は、約5メートルから8メートルとなります。



実際の119番通報について

どのようなことを答えればいいのか？

火災

【建物】 階建 階より出火 出火箇所() 築 年

【煙】 白煙・黒煙 【火炎の噴出】 有(箇所)・無

【延焼の恐れ】 有・無 【初期消火】 有・無

【要救助者】 有(人)・無・不明 【怪我人】 有(人)・無

人家族

通報者 (家族・関係者・隣人・通行人) 男・女

救出活動概論



救出活動について

自主防災組織による救出活動

1. 被害の実態把握

- 倒壊している建物に取り残されている者がどのような状態にいるのかを確認。また、単に閉じ込められているだけか、何処が挟まれているか、怪我の有無・程度等を確認。
- 建物倒壊状況及び内部の様子はどうか確認。内部に侵入する際は、窓等があるか、また、作業スペースがあるか確認。



2. 二次災害の防止

- 二次災害が発生する危険要因がないか周囲の確認。救出活動は、支柱の座屈、ガス漏れ、漏電等の発生に注意して活動。
- 火災の発生に備え消火器や水バケツ等を用意し、ガスの元栓や電気のブレーカーの位置が判明すれば早期に遮断等をする。



救出活動を開始する前に・・・

まず自分の身を守りましょう

- 肌を露出させない服装
(用意ができれば軍手・ヘルメット等の装着)
- できるだけ多くの人数で活動する



安全管理の徹底

救助を開始する場合

かならず**安全管理者**をつける

安全管理者は現場に異変がおきたら
すぐに救助者に伝える



3. 障害物除去

- 瓦・木片・トタン・ガラス等の軽量物を最初に除去。その際、取り除いたことにより再び崩れないように留意する
- タンスや冷蔵庫等を除去する時は、内容物を取り除いてから行い、除去したものは救出作業場所より離れた所に集積します。



4. 要救助者の救出

- 要救助者を無理に引き出そうとせず、障害物を取り除き、様子を見ながら救出します。
- 要救助者の近くまで掘り進んだ後は資器材を使わず手作業で行う。やむを得ず資器材を使うときは、要救助者の身体を傷めないように細心の注意を払う。



救出が完了したら・・・

- 要救助者を観察
- 呼吸がない場合 気道確保 心臓マッサージ
- 出血のある場合⇒止血
- たくさんの人員を集めて安全な場所まで搬送する
(救護所等)

搬送法（1人）



搬送法（2人）



搬送法（2人）



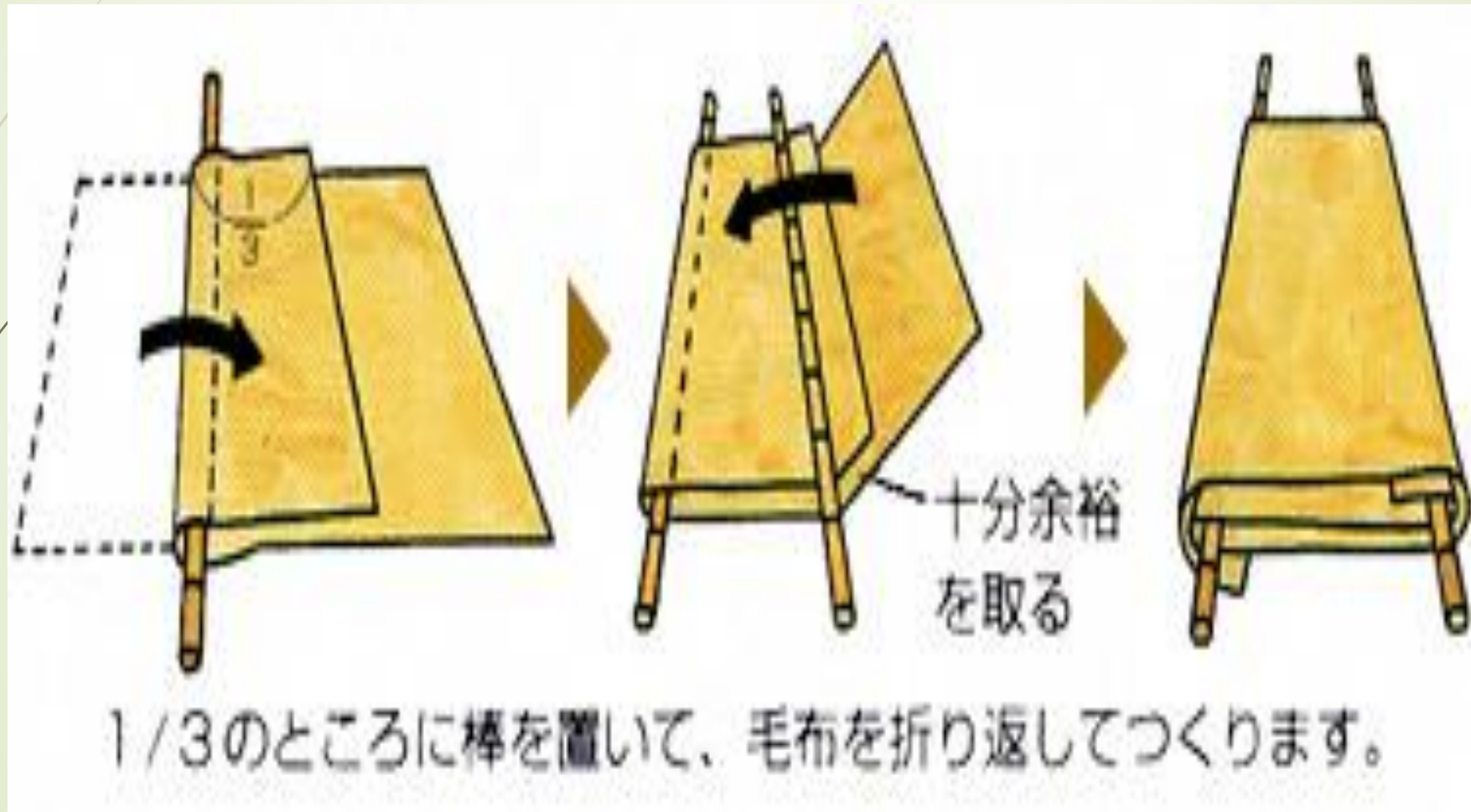
搬送法（2人）背面



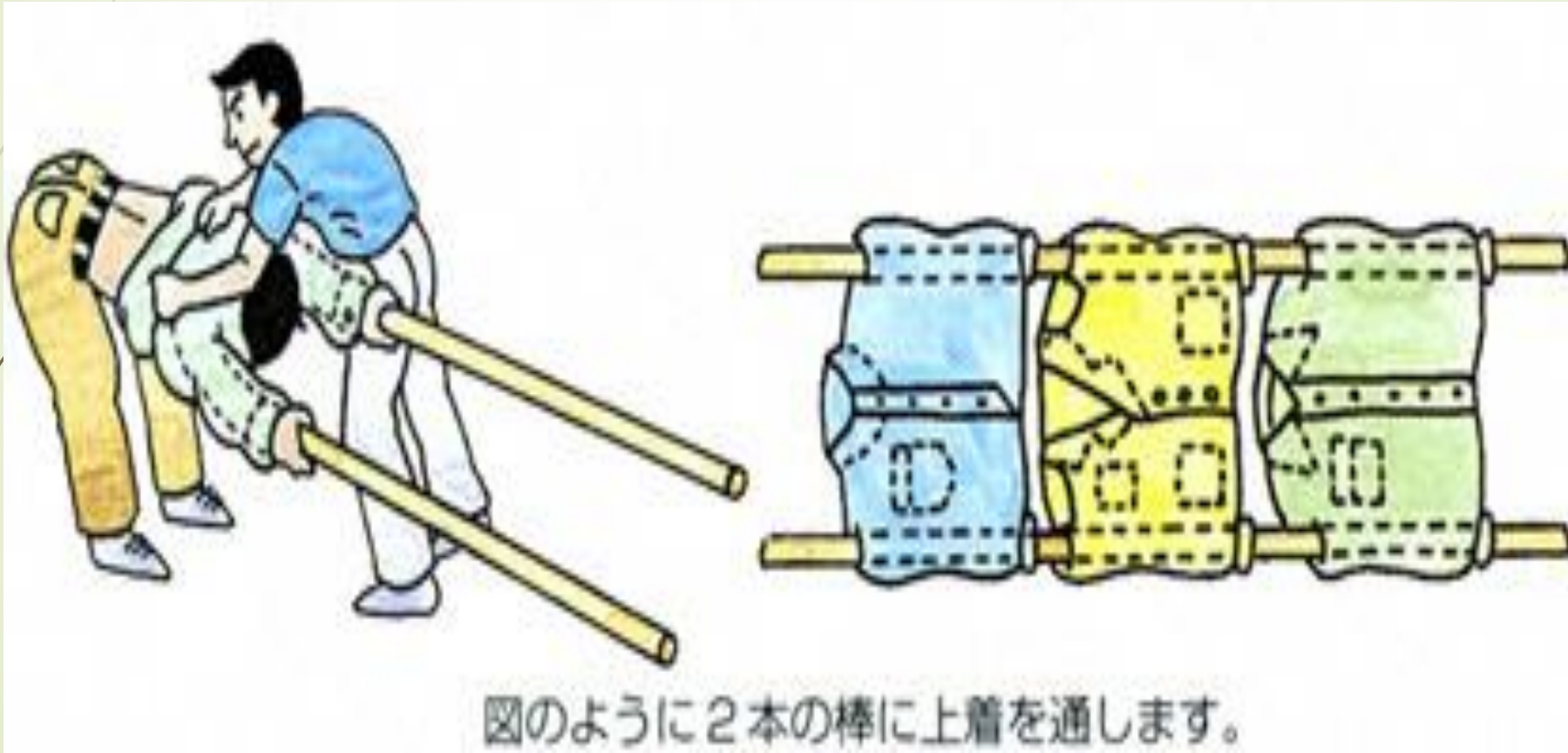
搬送法（毛布）



搬送法（竹と毛布）



搬送法（竹と衣服）



ご清聴ありがとうございました

